

## 小項目ごとの評価に関する評価委員の検討結果

## 第1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標

項目番号	評価項目	自己評価		委員会評価	判断理由・コメント
1	総合医療センター	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 総合医療センターが提供している高度・専門的医療について、概ね前年度並みの水準で提供できたとして、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</li> <li>※ 外来化学療法の数値を達成できなかった理由は何か。</li> </ul>
2	十三市民病院	Ⅳ	=	Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 目標指標のすべてで目標値を上回ったとして、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</li> <li>※ 既に、平成30年度の目標値を上回っているため、次期中期計画での目標の設定に際して検討すべき。</li> </ul>
3	住吉市民病院	Ⅲ	↓	Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 目標指標のうち救急車搬送件数は、小児科医師の年度途中退職の影響により後送受入を休止したこと、NICU稼働率は、目標値は下回ったものの、前年度実績は維持し、OGCS受入件数やNMCS受入件数はともに前年度実績を上回り、平成27年度末に閉院する予定であったことが周知される状況の中でも、地域周産期母子医療センターとしての役割をこれまで以上に果たすことができたことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価は、住吉市民病院の運営の困難さを勘案しても、目標指標の目標値を下回っていることから過大であり、Ⅱ評価が妥当と判断。</li> </ul>
4	新しい治療法の開発・研究等	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 厚生労働省・文部科学省科学研究費助成研究、先進医療、遺伝子治療などについて、年度計画の項目を着実に実施したとして、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</li> <li>※ 定量評価ではないので、Ⅳ評価とするのはどういう基準ですか、機械的には決められないのではないかと。</li> </ul>
5	治験の推進	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業治験、医師主導治験、製造販売後臨床試験及び受託調査については、年度計画の項目を達成したとして、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</li> <li>※ 公立病院としては頑張ったと認められるときはⅣ評価とするか</li> </ul>
6	災害や健康危機における医療協力等	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害拠点病院である総合医療センターを中心に十三市民病院、住吉市民病院においても各種防災訓練等に積極的に参加する等、年度計画の項目を着実に達成したとして、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</li> </ul>
7	優秀な医療人材の確保・育成	Ⅳ	=	Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 看護職人事給与制度を再構築し、27年度から導入することとしたこと、年度計画の項目のすべてで目標値を上回ったとして、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</li> <li>※ 26年度はまず看護職人事給与制度を再構築した点を評価し、次年度は導入の効果を評価すべき。</li> </ul>
8	職場環境の整備	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 育児短時間勤務制度の運用を実施しているほか、総合医療センターにおいて、2交代勤務を7病棟拡充させるなど、職場環境の改善に努めたとして、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</li> <li>※ 育児短時間勤務制度だけでなく、介護についても検討してはどうか。</li> <li>※ 積極的に女性が勤務しやすい条件を整えるべき。</li> </ul>

項目番号	評価項目	自己評価		委員会評価	判断理由・コメント
9	施設及び医療機器の計画的な整備	Ⅲ	↑ or =	Ⅳ or Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高度医療機器の整備や大規模施設整備について、調達コストを抑制しつつ、年度計画の項目を着実に達成したとして、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</li> <li>○ 法人化によって経費低減を図ることができたということなら、独法化の効果としてむしろ1期目で高く評価しておくべきではないか。</li> </ul>
10	地域医療への貢献	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 目標指標である紹介率・逆紹介率は、総合医療センターは、逆紹介率は目標値を下回ったが、紹介率は概ね前年度並み、十三市民病院・住吉市民病院の紹介率は目標値を上回り概ね前年度並みの実績であり、年度計画の項目を着実に実施したことからⅢ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</li> <li>※ 総合医療センターの研修会実施回数は前年度より減っている会合が多いのではないか。</li> </ul>
11	市域の医療従事者育成への貢献	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市域における看護師・薬剤師等医療スタッフの資質の向上を図るため、積極的に実習の受入を行い、年度計画の項目を着実に達成したとして、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</li> </ul>
12	市民への保健医療情報の提供・発信	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ホームページによる情報発信や市民公開講座等について、前年度と同様に積極的に実施し、年度計画の項目を着実に実施したことからⅢ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</li> </ul>
13	患者中心の医療の実践	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今年度新たに、がん患者の就労支援の一環として企業向けの研修会を実施したほか、セカンドオピニオン外来も前年度並みに実施するなど、年度計画の項目について着実に実施したことからⅢ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</li> <li>※ 小児に対しては、何歳からインフォームドコンセントをしているのか。</li> </ul>
14	医療の標準化と最適な医療の提供	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● クリニカルパス適用率は、総合医療センターは前年度実績を上回り、十三市民病院は、実績、目標ともに下回ったものの、前年度実績の約95%程度と概ね順調に推移している。住吉市民病院は前年度実績及び当年度目標を上回った。また、DPCにかかる総合医療センター及び十三市民病院の取組みについて、概ね年度計画の項目について着実に実施したことからⅢ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</li> </ul>
15	医療安全対策等の徹底	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各病院における医療事故の防止策、服薬指導など、年度計画の項目を着実に達成したとしてⅢ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</li> <li>※ 26年度に重大事故はあったのか。⇒重大事故なし。</li> </ul>
16	低侵襲医療の推進	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ハイブリッド手術機器の導入や内視鏡手術支援ロボット ダヴィンチの導入など、年度計画の項目について着実に実施したことからⅢ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</li> <li>※ 無痛分娩には取り組んでいないのか。⇒していない。</li> </ul>
17	院内環境等の快適性向上	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 総合医療センターにおいて、内視鏡検査室及び生理機能検査室の個室化、救急病棟の車椅子対応トイレの整備を行ったほか、他病院においても、院内環境の整備に努め、年度計画の項目について着実に実施したことからⅢ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</li> </ul>
18	待ち時間及び検査・手術待ちの改善	Ⅳ	=	Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 総合医療センターにおいて、採血室の勤務シフトの前倒しを実施したことなどにより、外来採血待ち時間を半減させ、患者等の満足度向上に寄与できたことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</li> <li>※ 採血開始時間を早くしたのは本当にいいこと。</li> </ul>
19	ボランティアとの協働	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 総合医療センターにおいて、ボランティアの受入れ拡大やスキル向上、多様なボランティアの受入れなど、年度計画の項目を着実に達成したことについて、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</li> <li>※ ボランティアは患者からの意見をよく知っているため、ボランティアとの会議などを行うことで意見を得ることができる。</li> </ul>

第2 業務運営の改善及び効率化並びに財務内容の改善に関する目標

項目番号	評価項目	自己評価		委員会評価	判断理由・コメント
20	組織マネジメントの強化	Ⅳ	=	Ⅳ	<p>● 総合医療センターにおいて、病院長のリーダーシップのもと、医療職を含めた総勢50名程度の職員からなる経営改善PTを概ね週1回の頻度で開催し、病院が抱えるさまざまな課題等について検討を重ね、改善を図ってきた。これらの活動の副次的・相乗的な効果と、新たな人事給与制度の導入なども含め、職員のやる気を引き出し、収支の改善にも繋がったと考えており、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</p> <p>※ 経営改善PTについてこの項目で評価すべきか、「23」で評価すべきか。            ※ PTは同じメンバーではなく、入れ替えを行えば、メンバーの疲弊も防げ、職員へ改革意識の浸透を図ることにもなる。            ※ 毎月、院長が職員へのメッセージの発信をすべき。</p>
21	診療体制の強化及び人員配置の弾力化	Ⅲ	=	Ⅲ	<p>● 診療科の新設や在院日数の適正化など、年度計画の項目を着実に達成したことについて、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</p>
22	コンプライアンスの徹底	Ⅲ	=	Ⅲ	<p>● 独法化に伴い、各種規程を整備したほか、個人情報保護や服务等を内容とする研修或いはカルテ開示などについて前年度と同様に実施し、年度計画を着実に実施したことについて、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</p> <p>※ 15「医療安全対策」と重複する可能性があるところなので、区分けを明確化するように。            ※ 病院は職員向けの福利や労働衛生が後回しになりがちだが、職員の働きやすい職場が患者サービスにも反映されることになる。</p>
23	効率的・効果的な業務運営・業務プロセスの改善	Ⅲ	↑	Ⅳ	<p>● 中期目標、中期計画及び年度計画に掲げる組織目標の着実な達成に向けて各病院が自律的に取り組むとともに、中期計画で設定した収支目標を達成することを前提に弾力的な予算執行を行い、自律性・機動性といった独立行政法人の特色を発揮した結果、年度計画での目標を8.9億円上回る経常黒字を達成できたことを独法化初年度の効果として高く評価し、Ⅳ評価とした。</p>
24	病床の効率的運用 診療単価の向上	Ⅲ	=	Ⅲ	<p>● 総合医療センターでは、病床利用率及び新入院患者数ともに目標値を上回った。十三市民病院は、病床利用率がわずかに目標値に届かなかったものの、新入院患者数は目標値を上回った。しかし、住吉市民病院は、平成27年度末で閉院する予定であることが周知されたことの影響もあり、病床利用率、新入院患者数ともに目標値を下回ったことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</p>
25	未収金対策及び資産の活用	Ⅲ	=	Ⅲ	<p>● 目標指標である未収金徴収率は、生活保護受給者及び外国人観光客にかかる高額未収金の発生により、わずかに目標値には届かなかったものの、ほぼ前年度並みの実績となった。また、十三市民病院における売店運営事業者の公募で、これまでの実績を上回る賃料を確保できたことも含め、年度計画を着実に実施したことからⅢ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</p> <p>※ 十三の賃料が増額した理由は、</p>
26	給与費の適正化	Ⅳ	=	Ⅳ	<p>● 目標指標である給与費比率について、全病院で目標値及び前年度実績を下回り、さらに、総合医療センターについては平成30年度目標を、住吉市民病院については平成27年度目標をそれぞれ下回ったことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</p>
27	材料費の縮減	Ⅳ	=	Ⅳ	<p>● 目標指標である材料費比率及び後発医薬品採用率について、全病院で目標値及び前年度実績を下回り（後発医薬品採用率については上回り）、総合医療センターの後発医薬品比率を除くすべての指標で平成30年度目標（住吉市民病院については平成27年度目標）を達成したことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</p>
28	経費の節減	Ⅲ	↑ or =	Ⅳ or Ⅲ	<p>● 目標指標である経費比率について、全病院で目標値及び前年度実績を下回ったことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</p> <p>○ 法人化によって経費低減を図ることができたということなら、独法化の効果としてむしろ1期目で高く評価しておくべきではないか。</p>
29	運営費負担金の削減 会計処理の明確化	Ⅲ	=	Ⅲ	<p>● 運営費負担金については、補正予算で可決承認された住吉母子医療センター（仮称）整備分を除けば目標額どおりであることから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</p>
30	経営指標の設定	Ⅳ	=	Ⅳ	<p>● 目標指標である自己資本比率は、目標値を上回り、医業収支比率は、全病院で目標値及び前年度実績を上回った。さらに、十三市民病院を除く医業収支比率が平成30年度目標を上回ったことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。</p>